

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.6.6-12

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

15:20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。

15:21 というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。

15:22 すなわち、アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。

15:23 しかし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリストの再臨のときキリストに属している者です。

15:24 それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を減ぼし、国を父なる神にお渡しになります。

15:25 キリストの支配は、すべての敵をその足の下に置くまで、と定められているからです。

15:26 最後の敵である死も減ぼされます。

15:27 「彼は万物をその足の下に従わせられた。」からです。ところで、万物が従わせられた、と言うとき、万物を従わせたその方がそれに含まれていないことは明らかです。

15:28 しかし、万物が御子に従うとき、御子自身も、ご自分に万物を従わせた方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。

15:29 もしこうでなかったら、死者のゆえにバプテスマを受ける人たちは、何のために

そうするのですか。もし、死者は決してよみがえらないのなら、なぜその人たちは、死者のゆえにバプテスマを受けるのですか。

15:30 また、なぜ私たちもいつも危険にさらされているのでしょうか。

15:31 兄弟たち。私にとって、毎日が死の連続です。これは、私たちの主キリスト・イエスにあってあなたがたを誇る私の誇りにかけて、誓って言えることです。

15:32 もし、私が人間的な動機から、エペソで獣と戦ったのなら、何の益があるでしょう。もし、死者の復活がないのなら、「あすは死ぬのだ。さあ、飲み食いしようではないか。」ということになるのです。

15:33 思い違いをしてはいけません。友だちが悪ければ、良い習慣がそこなわれます。15:34 目をさまして、正しい生活を送り、罪をやめなさい。神についての正しい知識を持っていない人たちがいます。私はあなたがたをはずかしめるために、こう言っているのです。

干からびて死んだと思われていた種が多数あって、試しに土に蒔いたところ、一つが発芽し始めてたします。私たちは「他の種も生きている」と確信することでしょう。イエス様の復活は「私たちも…」と確信させるものです。

またある工場の生産ラインで造られた同じタイプの自動車に欠陥があった場合、「他の車にも欠陥がある」と考えざるを得ません。アダムの罪は「私たちにも…」と確信させるものです。

アダムの罪による人間の死…。しかしキリストによる、死からの勝利…。両者は相容れない概念であり、矛盾する事実です。しかし聖書には「死

は勝利にのまれた」と宣言されています。その確証としてイエス様がよみがえったという事実があるのです。

それだけでなく、天地を造られた主は、「あらゆる支配と、あらゆる権威、権力を減ぼし、国」と御手に治めると明言されています。

ですから私たちは、十字架の死者であるイエス様のゆえにバプテスマを受けるのです。（「死者のゆえに」の解釈は、天国に行った信仰者のために、死に至る重篤な人のために…など複数あります。）そしてこのイエス様と一つとされたのですから、「明日は死ぬのだ。」というような刹那的で無目的な生き方はしないのです。

ですからお互いに、「神についての正しい知識を持って」いる者として、互いの信仰を整えて励ますような「友だち」となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 火曜

I コリント



15:35 ところが、ある人はこう言うでしょう。「死者は、どのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか。」

15:36 愚かな人だ。あなたの蒔く物は、死ななければ、生かされません。

15:37 あなたが蒔く物は、後にできるからだけではなく、麦やそのほかの穀物の種粒です。

15:38 しかし神は、みこころに従って、それいからだを与え、おのおのの種にそれぞれのからだをお与えになります。

15:39 すべての肉が同じではなく、人間の肉もあり、獣の肉もあり、鳥の肉もあり、魚の肉もあります。

15:40 また、天上のからだもあり、地上のからだもあり、天上のからだの栄光と地上のからだの栄光とは異なっており、

15:41 太陽の栄光もあり、月の栄光もあり、星の栄光もあります。個々の星によって栄光が違います。

15:42 死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ、

15:43 卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、強いものによみがえらされ、

15:44 血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。

15:45 聖書に「最初の人アダムは生きた者

となった。」と書いてありますが、最後のアダムは、生かす御霊となりました。

15:46 最初にあったのは血肉のものであり、御霊のものではありません。御霊のものはあとに来るのです。

15:47 第一の人は地から出て、土で造られた者ですが、第二の人は天から出た者です。

15:48 土で造られた者はみな、この土で造られた者に似ており、天からの者はみな、この天から出た者に似ているのです。

15:49 私たちは土で造られた者のかたちを持っていたように、天上のかたちをも持つのです。

コリントはギリシャの一都市でした。ギリシャ的な考えでは肉体は悪であるという理解で、死者がよみがえるなどというのは無意味だったのです。つまり当時の人々は、よみがえりといっても、ゾンビが起き上がってくるように死体のままで動き出すイメージでしかなかったのです。それで「そんなことは不可能だ。何の意味があるのか。」という議論に対して、パウロは答えました。

パウロが言うのはよみがえりの不連続性と連続性です。麦などの種は蒔かれると、その種自体は地中で死んだように朽ちていきますが、その過程を通して、新しい個体がつくられます。朽ちたという意味では不連続ですが、しかし新しい個体も以前の命を受け継いでいますから、命が連続しているのです。

つまり神がなされるよみがえりは、同じ命の連続でありながら、しかし肉体は別個のものであるということです。よみがえりのからだは天上のからだであって、地上のからだとは違うということです。天上のからだは「朽ちない」ものです。私たちは人智をはるかに超えたすばらしい希望に生

きているのです。

「私たちは土で造られた者のかたちを持っていたように、天上のかたちをも持つのです。」とありますから、私たちはすでに種の胚芽のように、次の天上のからだを持っているのですから、それを自覚し感謝して、そのように希望と意義を持って歩みましょう

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 水曜

I コリント



15:50 兄弟たちよ。私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。

15:51 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠ってしまうのではなく、みな変えられるのです。

15:52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。

15:53 朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならぬからです。

15:54 しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた。」とするされている、みことばが実現します。

15:55 「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」

15:56 死のとげは罪であり、罪の力は律法です。

15:57 しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。

15:58 ですから、私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知って

いるのですから。

私たちは肉の目で見て肉の耳で聞いているので、天の出来事を直接見聞できませんし、地上生涯以降のことも直接見聞することはできません。ですから死とその後のことが何が霧に隠れた遠いことのように感じやすいのです。しかし死とその後のことは非常に身近なことであり、もちろん現実のことであり、すぐにでも起きることです。

そして死とその後のことは、地上生涯のおまけのようなオプションではなく、それがメインであり本質的なことなのです。地上生涯はおそらく100年に満たないものですが、その後の時間は永遠に続くのです。神との関係で永遠が決定し、その神は永遠だからです。

そこで重要なのが神の国に入る、すなわち「神の国を相続する」ということです。永遠を相続するので、当然永遠に続くものが相続できるのですが、肉体の命は永遠ではありませんから不可能です。「不死を着なければならぬ」のです。もちろんそれは十字架の赦しによる、永遠の命です。

「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。…」というのは、ホセア書からの引用ですが、ここではさばきのために死が呼び起こされています。にもかかわらず神様はそのさばきを逆転して、赦しと永遠の命の勝利を与えてくださったということです。何という恵でしょうか。

「死のとげは…」とありますが、確かに死が恐ろしいのは罪ゆえのさばきがあるからです。また罪が恐ろしいのは律法ゆえのさばきがあるからです。私たちは死が恐ろしいものです。しかし勝利が与えられているのです。感謝しましょう。

このような恵の主が最終的な勝利者・支配者であります。そして私たちに必要で意味のある苦勞を与えてくださるのですから、「すべてはむだでない」と確信でき、前進できるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





16:1 さて、聖徒たちのための献金については、ガラテヤの諸教会に命じたように、あなたがたにもこう命じます。

16:2 私がそちらに行ってから献金を集めるようなことがないように、あなたがたはおのおの、いつも週の初めの日に、収入に応じて、手もとにそれをたくわえておきなさい。

16:3 私がそちらに行ったとき、あなたがたの承認を得た人々に手紙を持たせて派遣し、あなたがたの献金をエルサレムに届けさせましょう。

16:4 しかし、もし私も行くほうがよければ、彼らは、私といっしょに行くことになるでしょう。

16:5 私は、マケドニヤを通過して後、あなたがたのところへ行きます。マケドニヤを通るつもりです。

16:6 そして、たぶんあなたがたのところに滞在するでしょう。冬を越すことになるかもしれません。それは、どこに行くとしても、あなたがたに送っていただくと思うからです。

16:7 私は、いま旅の途中に、あなたがたの顔を見たいと思っているわけではありません。主がお許しになるなら、あなたがたのところにはしばらく滞在したいと願っています。

16:8 しかし、五旬節まではエペソに滞在するつもりです。

16:9 というのは、働きのための広い門が私のために開かれており、反対者も大ぜいいるからです。

16:10 テモテがそちらへ行ったら、あなたがたのところで心配なく過ごせるよう心を配ってください。彼も、私と同じように、主のみわざに励んでいるからです。

16:11 だれも彼を軽んじてはいけません。彼を平安のうちに送り出して、私のところに来させてください。私は、彼が兄弟たちとともに来るのを待ち望んでいます。

16:12 兄弟アポロのことですが、兄弟たちといっしょにあなたがたのところへ行くように、私は強く彼に勧めました。しかし、彼は今、そちらへ行こうとは全然思っていません。しかし、機会があれば行くでしょう。

教会にとって、クリスチャンにとって献金は重要なものです。パウロが「霊的恵み」と言っているように、霊的信仰の表れだからです。

コリントの教会は問題がありましたし、かつてはパウロも彼らからは何も受け取らない方が良くときえ考えていたようです。しかしパウロはささげる者への祝福を知っていたので、彼らにも献金を勧めます。またそのあり方を命じています。

第一に、献金は備えておくべきです。心に決めて、その通りに「たくわえて」用意するのです。それは信仰の表れとなるからです。第二に、献金は定期的になすべきです。「いつも週の初めの日に…たくわえて」とあります。月々の場合も多いでしょうが、定期的であることによって教会の働きは計画的で見通しの立ったものとなれるのです。第三に、献金は主から預けられた分を果たすべきです。多く与えられた者はそれだけ主からの預かりものが多いのですから、主にお返しすべきです。(十分の一は主のものとマラキ書にあるように) 第四に以上のまゝとめとして、献金はへりくだってすべきです。「自分がくれてやるのだから自分の

都合でいいだろう」とは考えずに、主のみわざ・主のからだのために最善と思われることを、仕える者の姿勢でささげることです。

また教会にとって宣教の計画は大切です。パウロは「マケドニヤを通るつもりです。」「エペソに滞在するつもりです。」というように、具体的な計画を持っていました。それも「広い門が私のために開かれて…」というように、現実に即したものです。

ただし一方では「主がお許しになるなら…」と、主を第一として従うことが大前提になっています。教会のミニストリー・計画も同様です。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？





16:13 目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。勇ましく、強くありなさい。

16:14 いっさいのことを愛をもって行ないなさい。

16:15 兄弟たちよ。あなたがたに勧めます。ご承知のように、ステパナの家族は、アカヤの初穂であって、聖徒たちのために熱心に奉仕してくれました。

16:16 あなたがたは、このような人たちに、また、ともに働き、労しているすべての人たちに服従しなさい。

16:17 ステパナとポルトナトとアカイコが来たので、私は喜んでいますが。なぜなら、彼らは、あなたがたの足りない分を補ってくれたからです。

16:18 彼らは、私の心をも、あなたがたの心をも安心させてくれました。このような人々の労をねぎらいなさい。

16:19 アジャの諸教会がよろしくとっています。アクラとブリスカ、また彼らの家の教会が主において心から、あなたがたによろしくとっています。

16:20 すべての兄弟たちが、あなたがたによろしくとっています。聖なる口づけをもって、互いにあいさつをかわしなさい。

16:21 パウロが、自分の手であいさつを書きます。

16:22 主を愛さない者はだれでも、のろわれよ。主よ、来てください。

16:23 主イエスの恵みが、あなたがたととも

にありますように。

16:24 私の愛は、キリスト・イエスにあって、あなたがたすべての者とともにあります。アーメン。

コリント教会への手紙もまとめに入ってきました。これまでの勧めを短くそして本質でまとめたのが、13節14節です。

「目を覚ます」とは見えている状態です。主ご自身を、自分のたましいを、教会の霊的な状態を、背後に働かれる主のみわざとみこころを見るならば、私たちはどんな状況にも正しく勝利の道を歩むことができるでしょう。

「堅く信仰に立ち」とは、自分が何を土台としているかです。自分が救われて今はどのような身になっているのか、その救いは誰によってもたらされたのか、いったい自分は何に従って人生を歩んだら良いのか…それらを考えると主への信仰という揺るぎないものを土台とするなら、決して揺り動かされることはないのです。

「勇ましく、強く」とは、主に従うことの勇氣・確信です。分かっているけどなかなか従えるものではない…などというのは勇氣がないからでしょう。

そして最後に「愛をもって」とあります。教会の一致も、偶像と決別することも、信仰の弱い人への配慮も、聖餐のあり方も、賜物を生かすことも、すべて愛を動機とするときに、必ず良い方向に向くからです。この「愛」はアガペイですから、主から受けて、主の無条件の愛で愛するものです。

パウロは「服従しなさい」と勧めます。本来人は神に従うべきではないかとも思いますが、教会など人との協力関係では、現実的に人（の決定）に従うということも必要になってきます。それは「自分がお世話になったから」とか「立派なひとだから」という理由でなく、「聖徒たちのために熱心に奉仕し、主のチームワークで「ともに働き、労している」のだからという理由です。

また「労をねぎらいなさい」ともあります。主の労ですから、それを感謝し励まし助けるのは協会の愛の交わりの基本となることです。

最後にパウロはすべてを主の權威のもとに置き、權威に従います。同時に「のろわれよ」とも「恵が…ありますように」とも言っているのは、彼が単に個人的な人情で書いているのではなく、永遠の權威者である神こそが、コリントの人々のすべてであるとかっているからです。主のみこころが語られない、単なる心地よいことばは無責任なものになってしまいます。パウロは真実に教会を愛していたのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





1:1 アハシュエロスの時代のこと・・・このアハシュエロスは、ホドからクシュまで百二十七州を治めていた。・・・

1:2 アハシュエロス王がシュシャンの城で、王座に着いていたころ、

1:3 その治世の第三年に、彼はすべての首長と家臣たちのために宴会を催した。それにはペルシヤとメディアの有力者、貴族たちおよび諸州の首長たちが出席した。

1:4 そのとき、王は輝かしい王国の富と、そのきらびやかな榮譽を幾日も示して、百八十日に及んだ。

1:5 この期間が終わると、王は、シュシャンの城にいた身分の高い者から低い者に至るまですべての民のために、七日間、王宮の園の庭で、宴会を催した。

1:6 そこには白綿布や青色の布が、白や紫色の細ひもで大理石の柱の銀の輪に結びつけられ、金と銀でできた長いすが、緑色石、白大理石、真珠貝や黒大理石のモザイクの床の上に置かれていた。

1:7 彼は金の杯で酒をふるまったが、その杯は一つ一つ違っていた。そして王の勢力にふさわしく王室の酒がたくさんあった。

1:8 それを飲むとき、法令によって、だれも強いられなかった。だれでもめいめい自分の好みのままにするようにと、王が宮殿のすべての役人に命じておいたからである。

1:9 王妃ワシュティも、アハシュエロス王の王宮で婦人たちのために宴会を催した。

1:10 七日目に、王は酒で心が陽気になり、アハシュエロス王に仕える七人の宦官メフマン、ビゼタ、ハルボナ、ビッグタ、アバグタ、ゼタル、カルカスに命じて、

1:11 王妃ワシュティに王冠をかぶらせ、彼女を王の前に連れて来るようにと言った。それは、彼女の容姿が美しかったので、その美しさを民と首長たちに見せるためであった。

1:12 しかし、王妃ワシュティが宦官から伝えられた王の命令を拒んで来ようとしなかったため、王は非常に怒り、その憤りが彼のうちで燃え立った。

エステル記の中に神や主ということばは出てきません。おそらくイスラエルが捕囚の地で、迫害を逃れて信仰を守るために、イスラエル人にしかわからないように書かれたものだと考えられます。このようにイスラエルの人々はどんな状況に置かれても、神様への信仰を捨てずに守り通そうとしたのです。

このように神様ということばを隠しても、それでも神様が働いたとしか思えないできごとがあります。私たちはそのような生きて働かれる神様を信じ、そして期待するのです。

この箇所は後にエステルが王妃となり、イスラエル同胞を救うための布石となる出来事が記されています。ここではアハシュエロス王がその権力を欲しいままにしているようすが表されていますが、それも後にギリシャに滅ぼされるまでのことです。権力者は自分の思うままに行動しているようで、結局神のみこころのために用いられる結果となるのです。

人間の勝手な権力を求めることをせず、またそれを恐れることもせず、ただ見えなくてもみこ

ろを確実に成し遂げる神様を求め恐れ、そして信頼して歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1:13 そこで王は法令に詳しい、知恵のある者たちに相談した。・・・このように、法令と裁判に詳しいすべての者に計るのが、王のならわしであった。

1:14 王の側近の者はペルシャとメディアの七人の首長たちカルシェナ、シェタル、アダマタ、タルシシュ、メレス、マルセナ、ムムカンで、彼らは王と面接ができ、王国の最高の地位についていた。・・・

1:15 「王妃ワシュティは、宦官によって伝えられたアハシュエロス王の命令に従わなかったが、法令により、彼女をどう処分すべきだろうか。」

1:16 ムムカンは王と首長たちの前で答えた。「王妃ワシュティは王ひとりではなく、すべての首長とアハシュエロス王のすべての州の全住民にも悪いことをしました。

1:17 なぜなら、王妃の行ないが女たちみなに知れ渡り、『アハシュエロス王が王妃ワシュティに王の前に来るようにと命じたが、来なかった。』と言って、女たちは自分の夫を軽く見るようになるでしょう。

1:18 きょうにでも、王妃のことを聞いたペルシャとメディアの首長の夫人たちは、王のすべての首長たちに、このことを言って、ひどい軽蔑と怒りが起こることでしょう。

1:19 もしも王によろしければ、ワシュティはアハシュエロス王の前に出てはならないという勅命をご自身で出し、ペルシャとメディアの法令の中に書き入れて、変更することのな

ようにし、王は王妃の位を彼女よりもすぐれた婦人に授けてください。

1:20 王が出される詔勅が、この大きな王国の隅々まで告知されると、女たちは、身分の高い者から低い者に至るまでみな、自分の夫を尊敬するようになりましょう。」

1:21 この進言は、王と首長たちの心になったので、王はムムカンの言ったとおりにした。

1:22 そこで王は、王のすべての州に書簡を送った。各州にはその文字で、各民族にはそのことばで書簡を送り、男子はみな、一家の主人となること、また、自分の民族のことばで話すことを命じた。

王妃が王冠をかぶるのは当たり前ですから、11節に「王冠をかぶらせて」とあるのは、王冠だけをかぶらせてという意味であると、ユダヤの伝統では解釈しています。これは全く恥ずべき軽率な命令です。それを拒否された王は、自分の面目を保ち鬱憤を晴らそうと、「男子はみな、一家の主人となること、また、自分の民族のことばで話すこと」を命じました。これは外国人の妻が自国語を話さないようにと考えたもののようです。

権力者は自分の思い通りに社会や組織を動かそうとしますが、結局は神様のご計画が進むのですから、私たちは神のみこころを求めて行う必要があります。社会が変わっても惑わされることはありません。様々な分析を試みて悩むよりも、単純に主のみこころを聖書から教えてもらえば良いのです。またはすでに知っている聖書の真理で生きればよいのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

